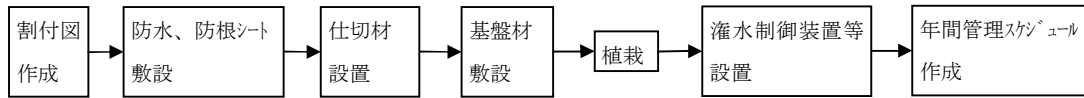


緑化基盤材GBシリーズ／施工基準

1. 施工フローチャート



2. 割付図作成（施工面積の確認）必要資材量の確認、植栽苗数の確認、発注

工事受注後、緑化面積を確認し、緑化基盤材、防水シート、防根シート、仕切材、植栽苗の必要数量を確認する。設計面積と施工面積が大きく異なる場合、資材が不足する場合がある。植栽苗は基盤材の植栽穴形状にあったものを選択する。（形状が合っていない場合、植物の生育に影響を与えてしまう場合がある。）灌水装置を設置する場合は必要な灌水チューブの長さ、制御装置等必要数も確認、発注する。

3. 防根シート、防水シート敷設工

緑化施工を行う部分全面に防根シートを敷設する。施工面に接着剤を塗布し、接着固定する。接着剤にコンシボンド GP100 を使用する場合は、片面 250～300g/m²を塗布する。シートの継ぎ目は十分な重ね代（20cm 以上）を確保する。

防水シートを設置する場合（建物の防水施工が十分でない場合は防水シートを設置した上に、防根シートを敷設する。（※防水施工は本基準書に準じない。）



（図 3 - 1）

4. 仕切材設置工

仕切材を任意の場所に設置する。仕切材はデザイン上必要な場合に設置する。設置方法、固定方法は使用する仕切材の素材、形状に適切な方法を選択する。（図 4 - 1、4 - 2 参照）



（図 4 - 1）

※樹脂製の軽量緑石を接着剤で固定し設置



（図 4 - 2）

※レンガを設置

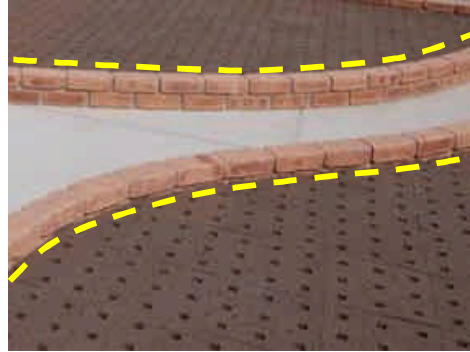
5. エクセルソイル緑化基盤材GB敷設工

エクセルソイル緑化基盤材GBを防根シート上、任意の場所に設置する。(図5-1参照)防根シートと緑化基盤材間に接着剤を塗布し、固定する。接着剤にコニシボンドGP100を使用する場合は、片面250~300g/m²を塗布する。

デザイン上で必要がある場合は、形状に合わせて端部を裁断する。裁断は糸鋸等で容易に行えるが、端部が少し荒れる。(図5-2参照)



(図5-1)



(図5-2) 黄色破線部：裁断箇所

6. 灌水チューブ設置工

設置した基盤材上に、灌水チューブを設置する。灌水溝付きタイプの点滴チューブを使用する場合は、灌水穴が下を向くようにペグ等で固定する。



(図6-1)

※点滴灌水 (赤色破線部：灌水チューブ)



(図6-2)

※スプリンクラー灌水

7. 植栽工

基盤材のタイプに応じた形状の苗を植栽する。

(A) マット苗タイプ

芝、タマリユウなどのマット状の苗で、適当な大きさにカットされた状態で納入される。

苗は根と基盤材が密着するように並べる。(図7-1) 芝の場合は張芝苗を敷設後、目土を掛ける。(図7-2)



(図 7-1)



(図 7-2)

張芝

(B) セル苗タイプ

植栽苗は専用トレイに入った状態で現場に納入される。(図 7-3)

苗は 1 株ずつ取り出し、ユニットに設けられた植栽穴に差し込む。(図 7-4) 苗を取り出す際は苗を傷めないように、株元を持って取り出すこと。苗が小さい場合や、苗とトレイが密着して取り出しにくい場合は、底穴から棒を使って押し出すか、ピンセットでエクセルソイル部分を持って取り出すこと。傷みが生じると枯死に繋がるため、絶対に茎を持って無理に引っ張ってはいけない。

植栽穴に差し込んだ苗は、基盤材と密着するように株元の土を軽く押さえる。



(図 7-3)



(図 7-4)

(C) ポット苗タイプ

植栽苗はポリポットに植えられた状態で現場に納入される。(図 7-5)

苗は株元を持って、ポットの底から押し出すように取り出す。取り出した苗を植栽穴に差し込み、基盤材と密着するように株元の土を軽く押さえる。根鉢の土が少なく基盤材との間に隙間が生じる場合は、適当な培土を補充し隙間を埋める。(図 7-6)



(図 7-5)



(図 7-6)

8. 灌水制御装置等設置工

施工面積、灌水用電源の有無等に従い決定したタイマー、電磁弁、液肥混入器を接続する。

電磁弁を用いる場合は元バルブと灌液 2 系統の合計 3 個使用を推奨する。上水道との接続部には逆流防止のため、チャッキ弁 1 個接続する。液肥混入器を設置する場合には、液肥混入器の前にはフィルター（#120）を各 1 個接続する。液肥混入器は専用の液肥タンクに接続する。（一般的に、施肥は粒状肥料をばら撒きで散布するため、液肥混入器は必要としない。）制御部（液肥混入器含む）から渡り配管、点滴チューブへ、継ぎ手（エルボ、チーズ等）を使い接続する。



（図 8-1）

※タイマー、電磁弁、液肥混入器を接続

設置後、全面に灌水が行き渡っているか、速やかに動作確認すること。

9. 年間スケジュール作成

設置場所、設置方法、植物の種類等を考慮し、詳細を決定するが、灌水、施肥、剪定、消毒、除草について年間の管理スケジュールを作成する。なお、植物の生育状況及び灌水システムを確認するため、施工後 1 年間は 1 ヶ月に 1 度程度の点検を行う必要がある。

9-1. 灌水

基準灌水量として、1 日 $6\sim 90 / \text{m}^2$ を目安とする。ただし、季節によって灌水量は変更する。

9-2. 施肥

灌水と同時に液肥による施肥を行う場合、2000～5000 倍希釈を基準とする。ただし、基本的に冬季は行わない。粒状肥料のばら撒きによる施肥を行う場合は、年 2～3 回、適量を散布する。

9-3. 剪定

基本的に 1 回/年、9 月に実施する。ただし、美観を求める場合は 3 回/年実施する。また、芝等の生長が著しい植物の場合、最低 3 回/年、美観を保つためには 6 回/年実施する。

9-4. 消毒

病害虫が発生した場合に適宜行う。用いる薬剤は病害虫の種類によって決定する。

9-5. 除草

1～6 回/年、人力による除草を実施する。ただし、季節によって非常に繁茂する場合があるので、目立つ場合は随時行う。

10. 施工管理

10-1. 出来形管理

工 種	項 目	規 格
防水シート敷設工	接着部	シートと設置面が密着していること
	継ぎ目部	密着していること
	端部（仕切材有り）	培土高さまでシートの立上りを設けること
	端部（仕切材無し）	培土部分に合わせてシートの端部を処理する
防根シート敷設工	接着部	防根シートと防水シートが密着していること
	継ぎ目部	密着していること
	端部（仕切材有り）	培土高さまでシートの立上りを設けること
	端部（仕切材無し）	培土部分に合わせてシートの端部を処理する
仕切材設置工	固定部	風等で移動しないよう、接着されていること
緑化基盤材 GB 敷設工	接着部	防根シートと基盤材が密着していること
	基盤材間	隙間が無いこと
灌水チューブ設置工	接地面	チューブの弛みが無いこと
	固定部	ペグ等の破損等が無いこと
	灌水点	灌水穴が上を向いていること
植栽工	株元固定部	株元培土と基盤材が密着していること
	苗状態	激しい傷み（茎の折れ等）が無いこと
灌水制御装置等設置工	接続部	水漏れ無きこと

（※確認は全数において行うこと）

10-2. 写真管理

工種	項目	時期	頻度	備考
防根シート敷設工	施工前	着手前	1回	全景
	材料検収	入荷後	種類毎1回	数量、規格
	施工状況	作業中	50㎡毎1回	
	出来形	完了時	50㎡枚1回	継ぎ目、端
	完了	完了時	1回	全景
防水シート敷設工	材料検収	入荷後	種類毎1回	数量、規格
	施工状況	作業中	50㎡毎1回	
	出来形	完了時	50㎡枚1回	継ぎ目、端
	完了	完了時	1回	全景
仕切材設置工	材料検収	入荷後	種類毎1回	数量、規格
	出来形	完了時	50㎡枚1回	
	完了	完了時	1回	全景
緑化基盤材 GB 敷設工	材料検収	入荷後	種類毎1回	数量、規格
	施工状況	作業中	50㎡毎1回	
	出来形	完了時	50㎡枚1回	
	完了	完了時	1回	全景
灌水チューブ設置工	材料検収	入荷後	種類毎1回	数量、規格
	施工状況	作業中	50㎡毎1回	
	出来形	完了時	50㎡枚1回	固定部、灌水点
	完了	完了時	1回	全景
植栽工	材料検収	入荷後	種類毎1回	数量、規格
	施工状況	作業中	50㎡毎1回	苗差込作業
	出来形	完了時	50㎡枚1回	株元、苗状態
	完了	完了時	1回	全景
灌水制御装置等設置工	材料検収	入荷後	種類毎1回	数量、規格
	出来形	完了時		連結部、制御部
	完了	完了時	1回	全景

※GB3303、GB3305の場合：50㎡=450枚

※GB4505の場合：50㎡=250枚

※GB5505の場合：50㎡=200枚